



発行2023年3月1日

3月 第253号

奈良・人と自然の会



<コナラの植樹、20年後が楽しみです>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	悪戦苦闘 (20プロジェクト中間報告)	7
Monthly Repo ならやま	2	ならやま投句箱	8
里山の今 (エコ・景観)	3	仲間入りしました・キノコだより	9
月例研修会 (法隆寺涅槃会) レポ	4	行事案内	10
シイタケ菌打ちイベント・レポ	5	幹事会報告・編集後記	11
オイルパステルとの出会い	6		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

朝はまだまだ寒いものの少しずつ春が感じられる。それを一番感じさせてくれるのは盛りの梅の花だ。ならやまには南高梅の花が咲き乱れる季節だ。きっと梅雨の頃には大きな実をつけてくれることだろう。

今年度の最終月である。助成いただいた事業をきちんと仕上げなければならない。コロナ禍で多少回り道もあったかもしれないが、新年度に向けて禍根のないようにしたい。各グループにおいて新年度の計画が策定されている。3月には新入会員歓迎会が予定され、各グループからのプレゼンテーションの中で来年度に向けた思いも語られるだろう。生き物は暖かさに吊られて動き出す。私たちも新しい春を迎えて元気を出さなければ。

3月の活動特記事項

3月2日(木)：協働活動(シイタケ菌打ち、古い榎木の整理、アダプトプログラム)

3月30日(木)：新入会員歓迎会

3月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備(榎木置場)、シイタケ菌打ちと榎木の運搬、薪割り 薪棚更新 ユート：アカマツの森でのマツの間伐整備
エコファーム	春野菜の畑準備(鶏糞、はた楽など散布)・種まき(カボチャ、ピーマンなど)、 じゃが芋植え付け、イモ畑整備(サツマイモ、サトイモ) 既存ハウス整備、堆肥造り、チップ入れ
景観	整備：チップパーによる伐採竹の粉碎、ミツバチ巣箱整備 ビオ：西池補修 花：樹木・花の草引き、施肥
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、保護植物周辺整備
果樹	南側斜面の整地 ブルーベリー、レモン、キンカンの植え床設置と植え付け 粉碎チップのコンポスト化

活動日：毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

冨井 忠雄

1月26日(木) 晴れ 53名+1名

気温-1度。伊藤めぐみさん入会、奈良大学学生1名が活動に参加。鈴木さんよりひな人形、鍾馗人形の作成について案内。

里山Gは椎茸楯木用玉切、イベント植樹用支柱作成など。エコGは鹿対策ネットの補強、野菜の収穫と販売。景観Gは実りの森竹林整備など。花班はジャーマンアイリスの草取り。ビオ班はハス池西側通路の改修。パトロールGは3コースのパトロール、A地区竹伐採整備など。果樹Gはワラビの植付け、コンポスト作り。

1月31日(金) 晴れ 5名+5名



イオン環境財団から2名、京都大学フィールド科学教育研究センターから3名、

計5名が来訪。ならやまを現地確認し、理想的な里山環境であり、今後、新しい里山モデルの研究に取り組んでいきたいとのコメントがあった。次回3月3日、京都大学の先生と学生が研修に来訪する予定。

2月2日(木) 晴れ 63名

協働活動として里山Gを中心に18日のイベントに向けた植樹用の穴掘りを行う。ならやま



大通り沿いでアダプトプログラムを行う。

里山Gはコナラ伐倒と玉切り、チップ作業。エコGは鹿ネットの補修、大根など野菜の収穫と販売など。景観Gはならやま大通りの法面の竹林整備。花班はアジサイ、ジャーマンアイリスの草取り。ビオ班は景観Gの作業に参加。パトロールGは3

コースのパトロール、保護植物の整備など。果樹Gはコンポスト作り、チップ作業の準備。

2月9日(木) 晴れ 69名

2月4日に新潟で開催されたコメリ緑育成財団の贈呈式の参加報告。菊川さんが卒寿(90歳)になられたことを全員で祝福。シイタケイベント、わいわい桜祭りの打合せなど。

里山Gは遊びの森遊具設置、植樹苗掘り出し、植樹場所へ土砂運搬など。エコGは水田の整備(真砂土入れ)畔の改修、東池の草刈り、大根など野菜の収穫と販売。景観Gはならやま大通り法面の竹林整備。花班はあじさいの寒肥やり、ジャーマンアイリスの草取り。ビオ班はビオエリアの水路の泥上げ、蓮池西側の補修。パトロールGは1コースのパトロール、丸太階段の補修。果樹Gは実りの森チップ作業と周辺整備。

2月16日(木) 曇り 68名+2名

奈良大学の学生とシニア自然大学校実習生、各1名参加。椎茸イベントの打合せ、月例研修会の報告。有志が作成した雛人形の披露。鈴木さんから菊川さんに卒寿祝いとして手作りの寿老人竹人形が贈呈された。里山Gは椎茸イベント準備、楯木置き場整備、薪割り。ユートピアは間伐した松枝を運び出し、ひらたけ、マツオウジの自然栽培の為の実験。エコGは水田への真砂土入れ、春まき畑の準備など。景観Gはならやま大通りの法面の竹林整備完了。花班は自転車道沿い花壇の草取りなど。ビオ班は蓮池通路に真砂土入れとブロックの設置。パトロールGは2コースのパトロール、A地区の伐採竹材処理、保護植物の調査など。果樹Gはチップ作業、ワラビの植付けなど。

2月18日(土) 曇り

子供14名+保護者と佐保台コーディネータ13名+ならやまスタッフ26名
椎茸イベントを行う。

エコファームグループ



景観グループ

農作物から教えてもらうこと

佐竹 樹之

近頃、ならやまの活動地に着くと、地面が凍っていることがある。予想最低気温が発表されるが奈良県北部地域のそれより活動地は何度か低いようです。田畑の表面が真っ白で、水が有る処には氷が張っている。畑の野菜達、白菜、大根、春菊、水菜、大和真菜等は皆、白い帽子を被っている様です。こうした冬野菜達は、寒さで凍らないように細胞の中に糖を蓄える為、食べると甘くて美味しいと感じるのだそうです。又、冬野菜達の傍では、玉葱が順調に育ち、寒さに耐えているかのように、か細い緑一本一本が、実に健気にさえ見えます。

我々は時に冬場は暖房、夏場は冷房と人工的な環境に身を置いています。ならやまの野菜達は厳しい自然の中で育ち、その逞しさには頭が下がる思いです。そんなエネルギーを内に秘めた農作物を、季節毎の旬に頂く有り難さを感じつつ、そうした野菜達を調理して下さる方々にも感謝し、日常生活やならやままでの時間を元気に明るく過ごしたいものです。先人達は現代の様な人工的な環境には居なくて、それにも拘らず今以上に美味しい米や野菜等を育てたのだからその苦労は計り知れないものを感じる。

近頃の農業は省力化を追求し、数多くの便利な器具や大型機械等が開発されてきたが、ここならやまでは、そうした機械類ではなく、昔ながらの鎌や鋤等を使って、正に「人の力」で出来るだけ続けてゆきたいものです。そこには「知恵」が必ず発生し、それを伝承してゆく源となる「エネルギー」が湧いてくると信じています。活動地に集う我々一人一人は微力ではあるが、多くの仲間と共に、楽しく活動を続けてゆくことが、日本の原風景を守り育ててゆくのに、実に意義あることだと信じています。

奈良に移住して

中川 徹

佐保自然の森から歩いて10分弱の住宅街のはずれに大阪から移り住み、35年目になりました。人の多い狭い住宅に囲まれた大阪の自宅は交通の便には恵まれていましたが、息苦しい生活でした。

通勤が可能な自然の多い郊外への転居を考え、休日に家探しが日課になっていました。大手の不動産会社が兵庫県川西市で新築分譲をしていました。その中での斜面に立つ家が気に入り購入を決めました。しかし、購入希望者が数名存在している家でした。公開抽選会がある日曜日にあり、希望者全員がそれぞれの家族をひきつれてくじを引きました。

私はなぜか当選すると思っていました。何日も前から斜面に立つ家での生活を想定して庭の植樹の種類も決めていました。当時、小学2年生だった長女が外れくじに落胆している私の顔を見つめていたことを思い出します。見晴らしのいい高台の家、今でも思い出します。

住宅情報雑誌に斜面の家と雰囲気似た現在の家が中古売却物件として掲載されているのを見つけたのは妻でした。11月の日曜日に見学に行き、居住者に話を聞きました。「庭にキジが遊びにきます」のひと言で購入を決めました。転居して直ぐに、庭でウサギとニワトリを飼いました。

あれから35年、一度も庭にキジはきていませんが、夜中にフクロウの鳴き声が毎年、聞こえます。20年前には、あの斜面の家のイメージで建てかえました。

奈良に移住して満足しています。

終焉の地と考えてます。



月例研修会・レポ

法隆寺涅槃会と藤ノ木古墳見学

高城 光一

昼間の気温が 2~3℃しかなく時々小雪が舞う極寒の史跡めぐりだった。今回のコースは J R 法隆寺駅を出発し門前町を通って藤の木古墳、藤の木古墳からは西里の集落を抜けて法隆寺へという平凡なものであったが、内容は実に盛り沢山。充実した一日であった。本手記では藤の木古墳と法隆寺涅槃会について簡単にふれておきたい。



藤の木古墳は直径 50m、笹に覆われた円墳である。到着してすぐに、羨道から石室内を覗くと少し赤みがかかった石棺が見える。これが何と考古学上第一級の史跡とのこと。今回は元檀考研博物館の説明ボランティアガイドの坂東さん(会員)からこの石棺のことや被葬者のこと



を、出土品の写真も交えて説明していただき、中身の濃い見学会になった。

筆者が特に印象に残ったことは、この古墳は地元西里の住民が被葬者を供養し大切に守ってきたため珍しく盗掘を免れたこと。その結果出土品から築造時期が6世紀後半と実証されている。



この日2月15日は釈迦が入滅した日にあたり、私たちはここ法隆寺の大講堂での涅槃会に参加した。涅槃図が掲げられその前で約1時間



の読経が続く。筆者にとっては寒いお堂の中でひたすら雑念の1時間であった。式の最後には私たちも焼香し散華をもらってお堂を退出した。ふと前方を見る



と今読経をしていた僧侶が列をなして帰る



姿、絵になる光景であった。参加者26名、総歩数1万3千歩。寒い中みなさんお疲れさまでした。



シイタケ菌打ちイベント・レポ

福田 美伸

晴天の予報が曇りになりました。シイタケイベントにはちょうど良い天気でした。子どもたちは山登り、里山遊び、菌打ち、植樹と大はしゃぎ！

子供 14 名、コーディネーター4 名、保護者 9 名、スタッフ 26 名、参加者総勢 53 名のイベントになりました。

9:05 山本担当幹事の進行説明。

千載会長の開催の挨拶。

* 集合写真撮影



9:20 活動開始。

1 班(黄色)山登り、里山遊び、2 班(赤色)菌打ち、3 班(青色)植樹のローテーション。

各、活動時間 45 分、移動時間 15 分。なお、全員コロナ対策のためのマスク、山に入るためのヘルメットを着装しました。移動後、それぞれのリーダーが説明、私たちが見て、びっくりするように楽しんでくれました。

* 里山遊び：ハンモックが気に入ったのか。



* 菌打ち：木槌で打ち、シイタケが鳴っているのを見て楽しかったのか。



* 植樹：客土を入れ植樹を添え木で縛る。



* ほとんどの親子が初めての経験なのは。



終了 11:40 で 1 時間ほど早くなりました。

富井ならやま委員長が閉会の挨拶で「何が一番楽しかったですか？」と子供たちに質問しました。「山登り！」との声も返ってきました。男の子が多かったからかも？ 確かに面白い急な山登りです。「わずかではあるが一部、穂高並みの急坂です」。子ども達の興味は尽きません。これからもできるだけ子ども達の気持ちに寄り添いたいと思います。

オイルパステルとの出会い

有元 康人

2011年テニス仲間から、絵画教室に誘われたのが出会いです。その人も、絵画を習うのは初めてで、一緒に習う仲間を求めており、私に話が来しました。

私の絵の経験は、中学生の一時期、遊びで似顔絵を鉛筆で画いたことがあります。その時以外は絵を画こうと思ったことはありません。不安もありましたが、リタイヤ後は、縁があれば何にでも挑戦してやろうと思っていたので、一緒に松浦教室に通い、習い始めました。

松浦先生は、絵画人口の少ない、オイルパステルを、世の中に広めたいと活動しておられ、日展に巨木の絵で10年連続入選している先生です。私は良い指導者に会ったと思っています。

オイルパステルとは、初めて聞いた画材でしたが、小学生の時に使っていた、クレヨンやクレパスのことで、この2種類はメーカーの商品名、正式名称がオイルパステルです。

教室で最初に画いたのは、ジャガイモの絵で、これは、ジャガイモの絵ですよと説明しないと分からないような駄作でした。

最初の2年間(月2回、13時から4時間)静物画(花や置物)や石膏デッサン、屋外の写生等を行っていましたが、帰りには疲労でグッタリ。構図ができない、画用紙に色が載せられない、まったく先が見えない日々でしたが、何とかなるものです。ある日の教室で、あまり深く考えないで、思いつく色を何種類か画用紙に乗せ、紙の上で色を作っていくと、深みのある色ができることに、気が付きました。

教室の作品展(2013年)に「沖縄のシダ」を出したとき、現代パステル協会の委員の方が来られ、ほめてもらいました。さらにこの作品を現代パステル協会展に出展するよう指導され、初めて翌年の公募展に出しました。



その(2014年)現代パステル協会展で会友に推挙されましたが、推挙の連絡が入った時には、会友とは何ですかと聞き直すような、絵画の常識がない自分がいました。

その後、「ザリガニ釣り」「花蓮」「雨上がりの沖縄」「足湯」を毎年出展、2018年には「奥入瀬の秋」で会友から準会員を飛び越え会員に推挙され、少しずつですが、前に進んでいるのかなと、思っています。



絵画を始めて残念な出来事は、松浦国樹先生が、すい臓癌(がん)で急死されたことです。

今は何人かの生徒が集まり、勉強会を月2回行っています。

会員になりましたが、まだ賞が取れません。何か別な発想が必要と思っていますが、どうしたら良いのか?

奥が深い趣味に出会え、集中して取り組むことができ、これからもライクワークとして励んで行こうと思っています。

悪戦苦闘

「20プロジェクト」中間報告

吉川 利文

ならやまの水田の東隣に「20プロジェクト実験農地」という看板が立っている。20プロジェクトってなに？ ははー、ご存じない？

そこで、まずそこから——。ことは一昨年12月に始まる。その月下旬に開かれた「ならやま研修会」で、近畿大学農学部教授の北川忠生先生による「畑を耕す魚類学者」という講演があった。講演の趣旨は、北川先生が飼育している絶滅危惧種の淡水魚ニッポンバラタナゴに関連して飼育用水路を浚渫したヘドロを肥料にして農作物を作る試みに成功したというお話だ。肥料代が浮くといったケチな話ではない。いま国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)のうちの生態系保護をめざすことにつながる。

「ならやまでもやれるのか」。講演に感銘を受けた私と鈴木末一顧問がさっそく「追試験」に取りかかった。当会創設20周年を記念する講演会がきっかけのプロジェクトなので、とりあえず「20(トゥエンティ)プロジェクト」と仮称することにした。

一段落したので、中間報告をしたい。

【失敗また失敗】昨年3月半ば、まず、水田東隣に10坪ほどの実験農地を確保、畝を3本起こした。西側から順番に、▽ビオトープの池を浚渫したヘドロ(天然ミネラル)を配合した畝▽肥料ゼロの無施肥の畝▽エコファームで通常耕作するときを使うチップを配合した畝——という具合に配置し比較観察できるようにした。

さて作物として何を植えるか悩んだが、姿・形から生育状況が観察しやすいものとしてハウレンソウを選定。4月中旬、3本の畝に均等にタネをまき、活動日の合間も水やりに通った。5月に入ると畝の上に雑草が目立ち始める。雑草取りのためにもならやま通いを続ける。雑草の伸長が速く、鈴木顧問も活動日以外に何度か

出てきて刈り払い機で除草されていた。

おかげで、6月中旬、ハウレンソウはかなり背が伸び、畝ごとの成育の違いが観察できた。北川説を裏付けるように、天然ミネラル配合地の成育が100%とすると、チップ配合地が70~80%、無施肥地が40~50%だった。

ところがこの夏、雑草の勢いが猛烈。7月に入ると、除草が追いつかなくなり、ついにハウレンソウを雑草の彼方に見失った。失敗だ。

鈴木顧問と相談し、第2ラウンドに取り組むことに。鈴木顧問が「育てやすい」と、オクラの仲間のオカノリを提案、7月21日、提供していただいた種を、3本の畝に均等にまいた。

しかし、どうしたことか、いつまでたっても発芽せず。7月28日、8月4日の日誌に「発芽を確認できず」との記述が続く。8月11日、オカノリの育成を断念。再び失敗——。

【三度目の正直】第3ラウンドとして10月初め、季節を考慮してハクサイとミズナを苗で植える。鹿の食害防止のため手作りの柵を設け、雑草の脅威を避けるため、畝の間に防草シートを敷き詰める。同月中旬、いずれの苗も根付いたことを確認。その後、順調に成育。

興味深いことに、同月末時点で、どちらの成育順も、①天然ミネラル配合地②無施肥地③チップ配合地——だった。無施肥地が2位というのは「先達の土作りのお陰だろう」と見た。

天然ミネラル配合地のハクサイが猛然と成育、11月初旬、早くも結球し始める。結球を待ち兼ね、12月15日と29日、ハクサイ10株ずつをエコファームのほのぼのの販売に便乗させてもらう。購入者に“食レポ”を要請したところ、おおむね「美味しかった」と好評だった。少数ながら、「皮が硬かった」「水臭かった」との感想もあったが、理由は不明だ。

失敗続きの悪戦苦闘。それだけに反省と課題は多い。ほとんど孤軍奮闘。幸いにも、コメリが助成金で後ろ盾になってくれることになった。勇気百倍。心機一転、この春から仕切り直す。

新ならやま投句箱

俳句

蠟梅の俯いて咲く塚の上

古川 祐司

絵手紙や立春の文字踊りたり

鈴木 末一

野良の春背中に広がる温ぬくさかな

八木 順一

防人の哀歌満つ野辺梅一輪

八木 健彦

薪割りを終えて冬晴れトン汁や

坂東 久平

カルガモの春へ飛び立つ今朝の池

羽尻 嵩

大とんど崩れて歓声青い空

中井 弘

竹雛作り色彩思案の図画工作

阿部 和生

雪の道ためらいながら老いの脚

山本 美智子

梅が香や上衣をぬいで畑仕事

藤原 勲

剪定の梅チップパーに香り立つ

豊田 浩代

川柳

振り向けばぶさかわの猫目を逸らし たけちゃん



新ならやま投句箱への投句ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

短歌

武器供与それは戦争加担です はるよ

未練まで断捨離できる生き上手 ひら

新コロナなってみたら軽い風邪 のぶ

なんだっけさがしていたのなんだっけ ペコちゃん

こらコロナ5類になつて去る頃な トラ吉

窓越しは開けぬる冬の陽射しかな庭に花咲く

可憐な梅よ 谷川 雅邦

東風時雨冬芽膨らむ柚子の里育てし主の

やさしさ薫る 千載 輝重

ピンクに黄花咲き芽吹く観察路笑顔を思い

階段直す 高間 祥子

病院の窓から見える葛城山歩けるようにと

私を励ます 戸田 博子

仲間入りしました



伊藤 めぐみ

ならやまの皆さんこんにちは。二月より入会させていただきました、木津川市に住んでおります伊藤と申します。先の挨拶でもお話させていただきましたが職業は大工です。住宅ではなく主にお店を作るお仕事をさせていただいています。二十代のころ岐阜県の飛騨高山に住んでおり、そこで大工育成の学校に通いました。その後地元の親方の元で三年ほど修行させていただいてから関西に戻って来ております。大工といえども実際道具を持って現場で作業するのは今は大体年の半分かくらいです。

残りの時期は仕事の依頼を聞きに行ったり、設計したり見積もりしたりして過ごしております。そうしますと困るのが体がなまってしまうという事で、一日パソコンの前に座っていると段々腰が痛くなり、次に現場に出るときは筋肉が落ちてしばらく辛い思いをします。ですのでならやまに来たいと思ったのは体がなまってしまう様にといい事と自然が好きだという事、また二十歳のころより木に触れる仕事をしていますので、自然の中の生きている木にもやはり興味があります。ならやまの皆さんは明るくて元気で、まだ数回ですがとても楽しく参加させていただいています。現場が始まりますと、ならやまはお休みさせていただくことになるので参加が不定期になりますが、ちょっとずつでも続けて参加したいと思いますのでよろしくお願いたします。里山グループに参加させていただいていますが、木を切ったり薪を割ったりと体を動かしてメンバーの皆さんのお話をお聞きしているととても元気が出ます。どうぞよろしくお願いたします。



フキノトウ



きのこだより

美味しいきのこ ヒラタケ(平茸)

高間 祥子

晩秋から春にかけて、主に広葉樹の朽木や切り株に、いくつか重なり合って発生するきのこです。ならやまでもたくさん出ます。



カサは大きいもので20cmほど。色は明るい褐色、形は幼いころは饅頭型、成長するにつれてカサが開き、貝殻型や漏斗型に変化していきます。英語ではその形からオイスターマッシュルームというそうです。

表面は平滑でぬめりはありません。ヒダは白色から淡灰色で柄に垂生します。柄は短く、無柄の場合もあり、根元には白毛が密生します。

カサは肉厚で弾力があり、歯ごたえが良く、



ならやまのキノコを鍋にしました

身が締まってボリューム感があります。淡い香り、クセのない淡白な味で、味噌汁、バター炒め、ホイル焼き、炊き込み ご飯などに合います。

ただ、ヒラタケは毒キノコのツキヨタケに似ている為、注意が必要です。ツキヨタケの基部の肉には黒いシミがあるので、黒いシミが見つかった場合には食べてはいけません。またセンチュウによる「ヒラタケ白こぶ病」の被害を受けているものも食べないでください。

野生のきのこは変化が大きいので、図鑑や写真を見ただけではわかりません。基本は全部食べずに少し残しておくこと。体調がおかしくなった時にこれを食べたと言えます。

今、ユートピアGでは、ヒラタケを増やせないかと模索、実験中です。乞うご期待ください。



行事案内



pinta.jp - 5891541

佐保川わいわい桜祭り

- ◆ 3月25日(土) 予備日26日(日)
- ◆ 奈良市立佐保川小学校・運動場など
- ◆ 模擬店(AM10:00~12:00)
- ◆ 美しい桜を見に行こうと全国各地の桜の名所を目指して人々が行き交う季節です。
- ◆ 奈良市内中心部を流れる佐保川の堤は、ソメイヨシノ約1,000本が咲き誇る桜の名所です。江戸時代末期、奈良の名奉行として現在も尊敬を集める「川路聖謨(かわじとしあきら)」が山林の整備や東大寺周辺の植樹など、景観整備を行う一環で植えさせたものに端を発すると言われています。JR関西本線の踏切を渡った周辺には、川路時代に植えられたとされる樹齢170年程度の「川路桜」が数本あります。
- ◆ 佐保川小学校(近鉄新大宮駅北東500m)の運動場や水辺の楽校では、新型コロナ禍の関係もあり、例年より規模を縮小し、ゲームやクラフトなどの模擬店が出展され、佐保川桜祭りが3年ぶりに開催されます。
- ◆ 当会は地域の一員として模擬店に参加します。紙トンボ、ガリガリヘリコプター、竹笛など、手作りのクラフト体験をしてもらいます。
- ◆ 桜見物を兼ねて、出展会場に足を運んでください。



ガリガリヘリコプター



紙トンボ



竹笛



新入会員歓迎会

有元 康人

昨年4月から今年3月までに入会された方を対象に以下の要領で行います。

◆ 昼食時間内に行います。今年はスペシャル豚汁、焼きそば等を提供する予定です。

◆ 日 時：3月30日(木) 12時~13時
(雨天順延4月6日)

◆ 内 容

1. 新入会員の紹介
2. 新入会員歓迎の言葉
3. 新入会員の挨拶
4. 展示資料で各グループの紹介
5. 閉会

担当 豊田、有元、富江



2023年2月度 幹事会報告

- I. はじめに
 - ・数名のコロナ感染が確認され、濃厚接触者を含めて、活動を休んでいる。ならやまの活動は屋外でもあり、ならやまの活動による感染リスクが増加したとは考えられないため活動は従来通り継続する
- II. 会計・総務部より
 - ・会員動向：入会1名 会員数150名
 - ・会計：ほぼ予算通り進捗
- III. 活動・行事関係
 - *ならやまプロジェクト関係
 - ・2/18 椎茸イベント 菌打ち・植樹・山遊び
 - ・BCのテント修理が必要
 - ・チップパー機の使用は 管理者をおき注意する
 - *イベント関係
 - ・3/25 わいわい桜祭り 工作の打ち合わせ要
 - ・2023年度イベント計画
 - 天平祭(5月)、お山を歩こう(5月)、里山を歩こう②(8月)、忘年会は取りやめ、新たに「こどもゆめくらぶ」(9月)を追加
 - ・そば祭りと芋煮会は同時開催とする
- IV. 企画、助成金事業案件
 - ・2023年度助成金はコメリ、ならコープ、アダプトのみの予定
 - ・2024年度の応募については年央を目途に検討する
- V 特定議題
 - ・総会資料準備 実績報告 計画、3/10提出
 - ・県との協定更新
 - 現協定内容のまま更新する方向で考える
- VI 広報関係
 - ・ネイチャーなら3月号編集内容について説明
- VII 報告・連絡事項、その他
 - ・2023年度会費納入案内(会報誌3月号同封)
 - 新名簿により会計(尾崎・有元)が集金管理



弥生三月と聞くといよいよ春が近いと感じられます。弥生は旧暦の3月を意味しますが、今日では新暦の3月としても用いられるようです。言葉の由来は、「草木がいよいよ生い茂る月」→「木草弥や生ひ月」→「弥や生ひ」→やよい、になったとの説があります。旧暦の弥生は今より一カ月ほど遅く、文字通り草木が生い茂る暖かい春が感じられたことでしょう。

この冬は10年に1度の寒波到来で、各地で大雪が降るなどしました。車や列車が立ち往生したり、各地で停電や断水したりと大変な冬でしたが、ようやく季節は移り雪も溶けて弥生三月になりました。

長く土の下で春を待っていた草花や木々たちも、春の日差しを浴びてそろそろ芽吹いてくることでしょう。我が家の小さな庭にも“ならやま”の方たちからいただいた草木があります。もう会えなくなった方もおられますが、草木を見る度にその方々を思い出します。今年もまた草木の芽吹きを楽しみにしています。

4月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動(木) 4/6 協働活動日
- *月例研修会 4/18(火) ナメゴ谷の花見
- *自然教室 4/6(木) ならやま自然観察会

会員動向(敬称略)
 <入会者> 2/2 伊藤 めぐみ
 <退会者> 2/4 枇杷原 満喜

発行：奈良・人と自然の会
 URL : <http://www.naranature.com>
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：子どもたちが会員と一緒にコナラの幼木を植えました。